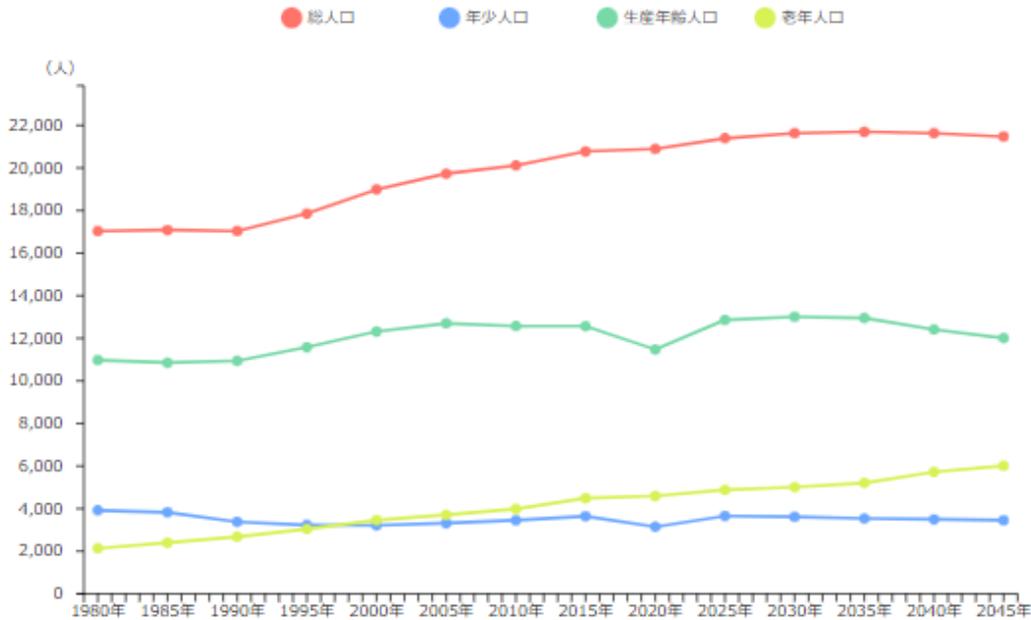


滋賀県愛荘町 RESAS による経済動向分析（令和3年度）

【調査の目的】

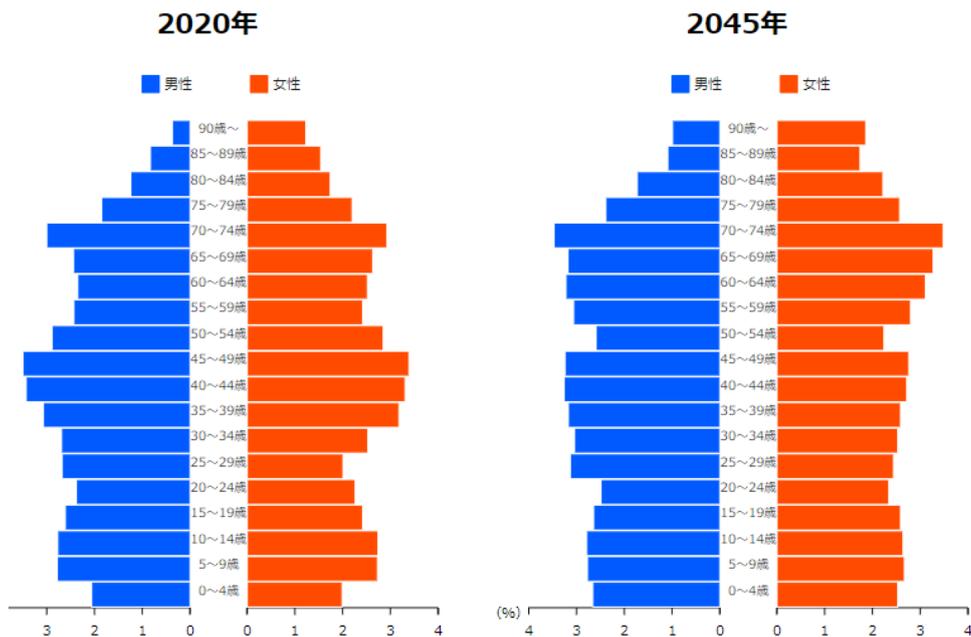
RESAS（地域経済システム）は、地域経済に関する様々なデータをグラフ等により「見える化」したシステムである。愛荘町内の事業者が持続的発展に向けて、地域の経済動向を的確に把握し事業者にはフィードバックが重要であると考え、本調査では町内の人口動態、業種ごとの経済動向を示すことにより、小規模事業者が販路開拓、商品開発等に関する経営状況分析、事業計画書策定の基礎資料として活用されることを目的に実施した。

【年齢別人口の推移】



2020年の愛荘町人口の総人口は、20,778人。10年前（2010年）の20,118人と比較して微増している。今後も増加が見込まれる。年齢別の将来の傾向を見ると年少人口、生産年齢人口は横ばい傾向。老年人口は増加する見込みとなっている。

【人口ピラミッド】



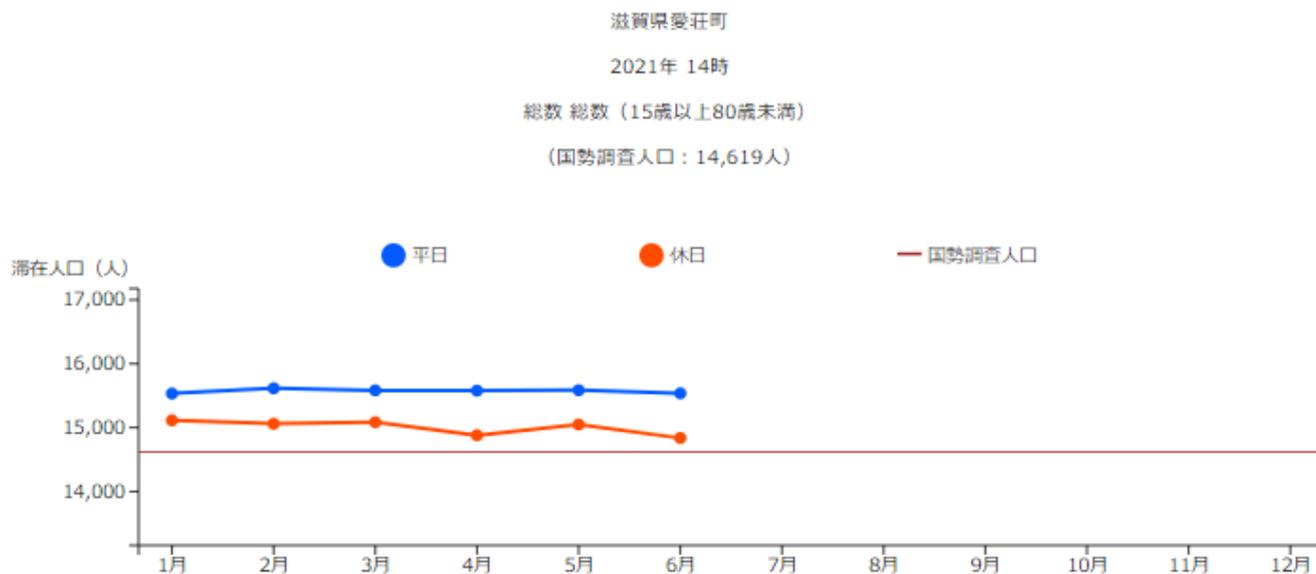
老年人口（65歳以上）	365,311人（25.84%）
生産年齢人口（15歳～64歳）	824,781人（58.35%）
年少人口（0歳～14歳）	191,369人（13.54%）

老年人口（65歳以上）	433,252人（34.31%）
生産年齢人口（15歳～64歳）	671,449人（53.17%）
年少人口（0歳～14歳）	158,223人（12.53%）

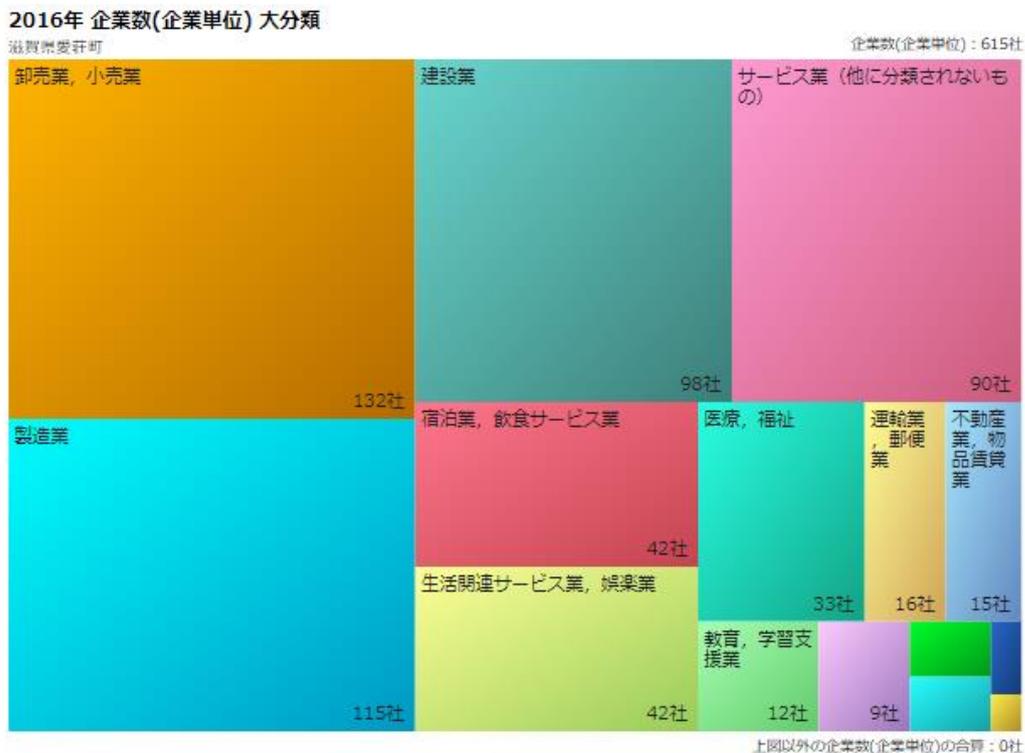
現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。愛荘町の人口ピラミッドは、老年人口の割合をみると、2020年の25.84%から2045年には34.31%に増加し、生産年齢・年少人口とも微増する見込みで、逆三角形になりつつあるが、他地域に比べ緩やかな傾向にあり、現在のビジネスモデルに加えて、高齢者に向けた商品販売、サービスの提供を充実することが望まれる。

【滞在人口】 2021年1月～6月（上：昼間14：00、下：夜間20：00）

愛荘町に滞在している人の数を月ごとに示したグラフである。6月：平日の昼間人口は15,537人、休日は14,836人で約1.06倍。昼間時は、通勤等により他の地域流入していることがわかる。

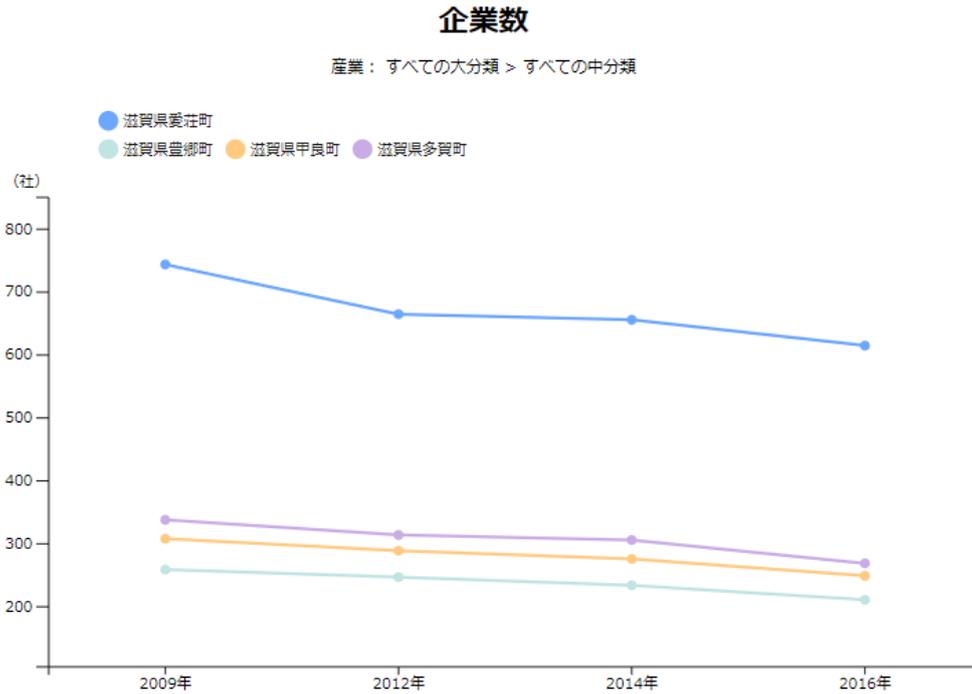


【愛荘町の産業構造】



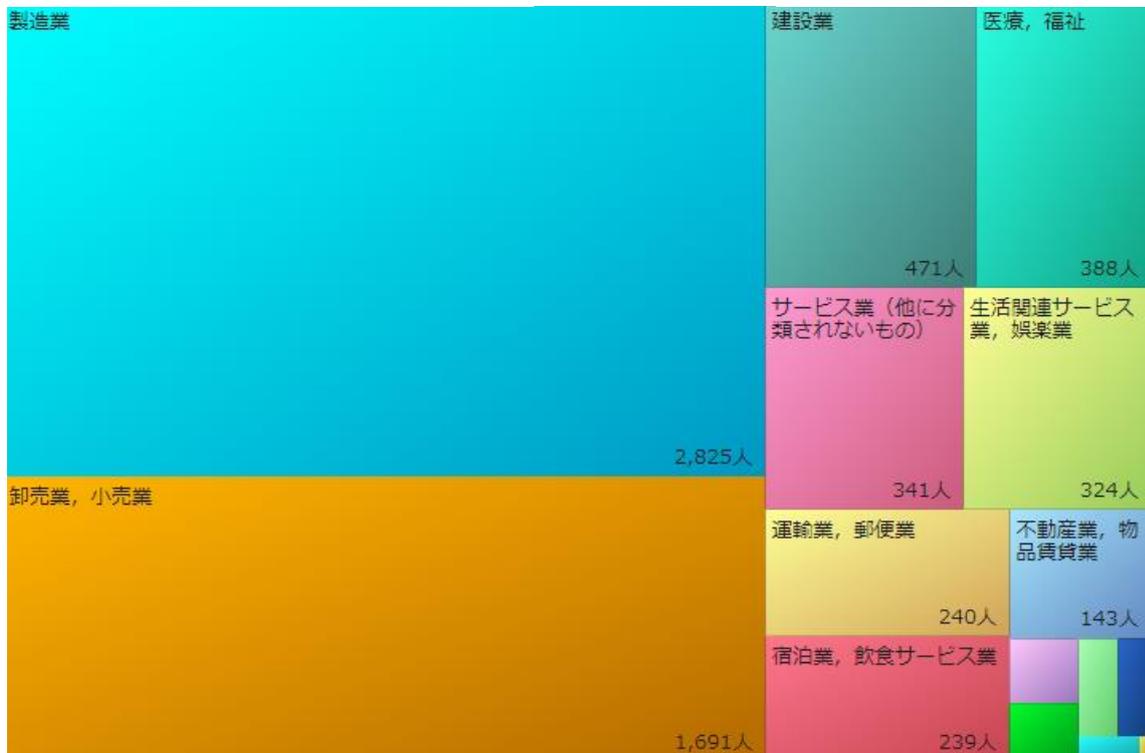
愛荘町内の事業所数を業種ごとに面の大きさで示したグラフである。最も多いのは、「卸売業・小売業」で132事業所。全体の21.4%を占めている。その後、「製造業」の115社で18.6%。「建設業」98社の15.9%と続いている。

【事業所数の推移】



愛荘町内の事業所数の推移を見ると、2016年の事業所数は、805 事業所。近隣地域では、多賀町 378 事業所、豊郷町 307 事業所の順となっている。

2016年従業員数（事業所単位）大分類
滋賀県愛荘町



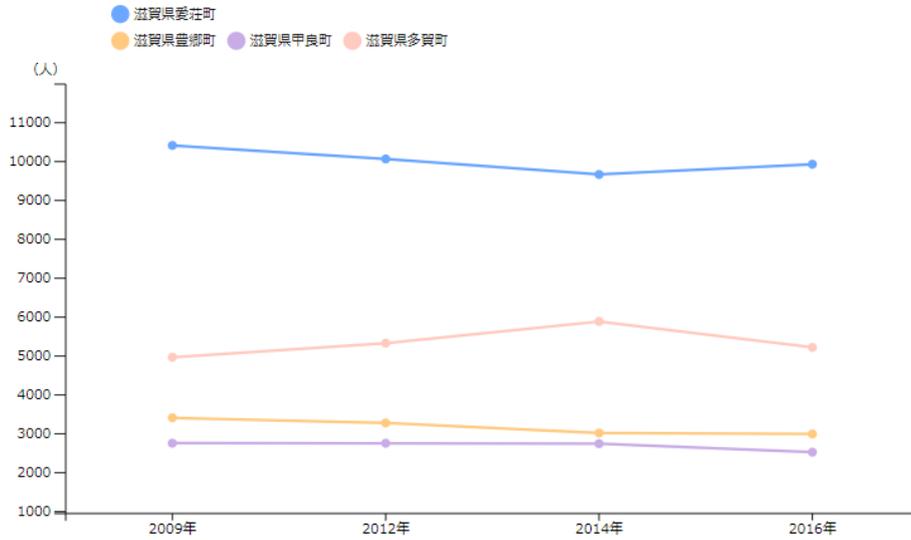
愛荘町内の従業者数を業種ごとに面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは、「製造業」で2,825人。全体の41.55%を占めている。その後、「卸売業・小売業」の1,691人。「建設業」が471人と続いている。

【従業員数の推移】

愛荘町内の従業員数の推移を見ると、2016年の従業者数は9,931人。2014年と比較すると0.26%増である。他地域を見ると多賀町が12.75%減、甲良町が0.2%減少している。

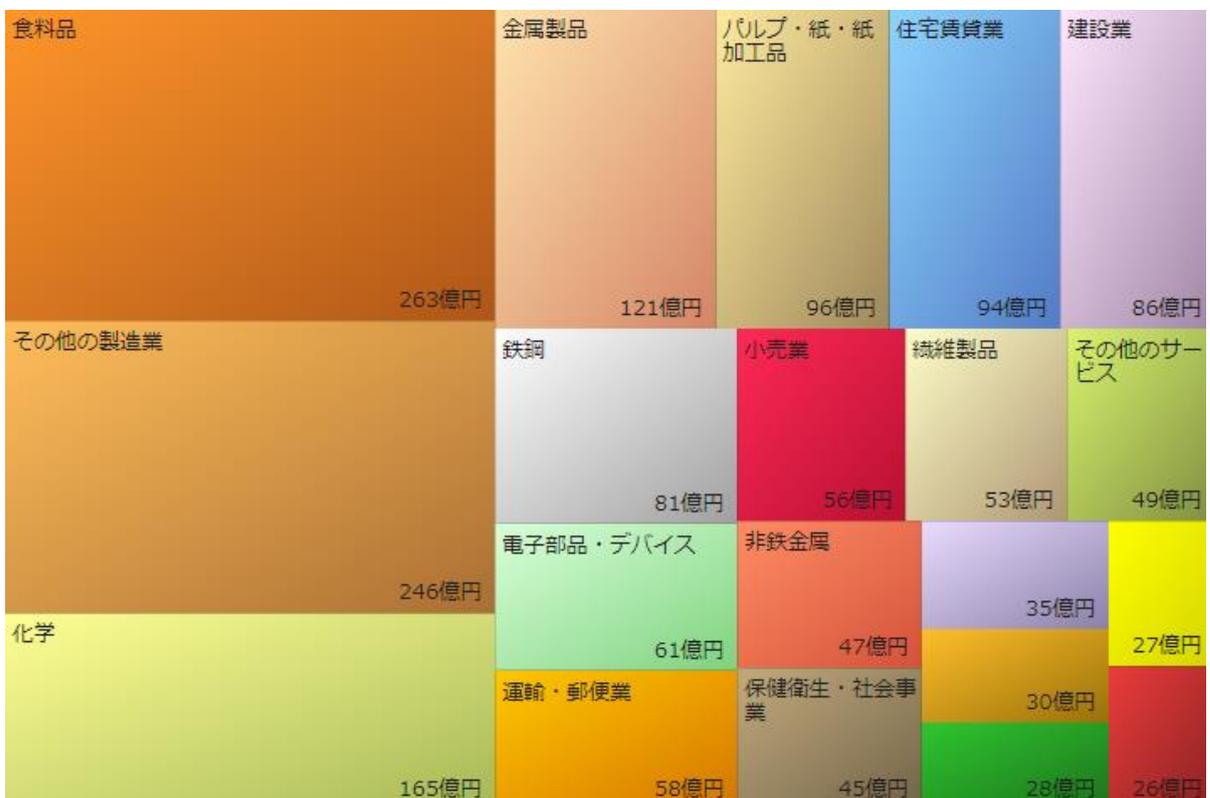
従業者数（事業所単位）

産業：すべての大分類 > すべての中分類



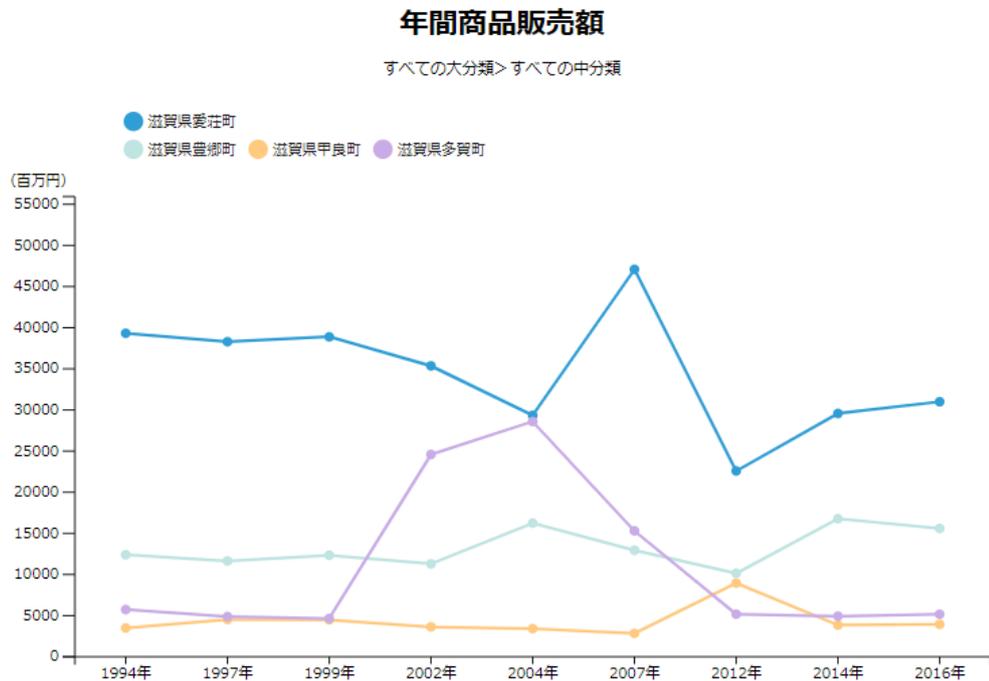
【生産分析】

愛荘町内事業所の生産（付加価値）の内訳を面大きさで示したグラフである。付加価値の高いのは、食料品製造業が7社（大企業含）立地している関係で、食料品で、続いて「その他製造業」、「化学」となる。事業所数で、最も多いのは、「卸売業・小売業」であるも、付加価値の視点で見ると、「食料品」となる。



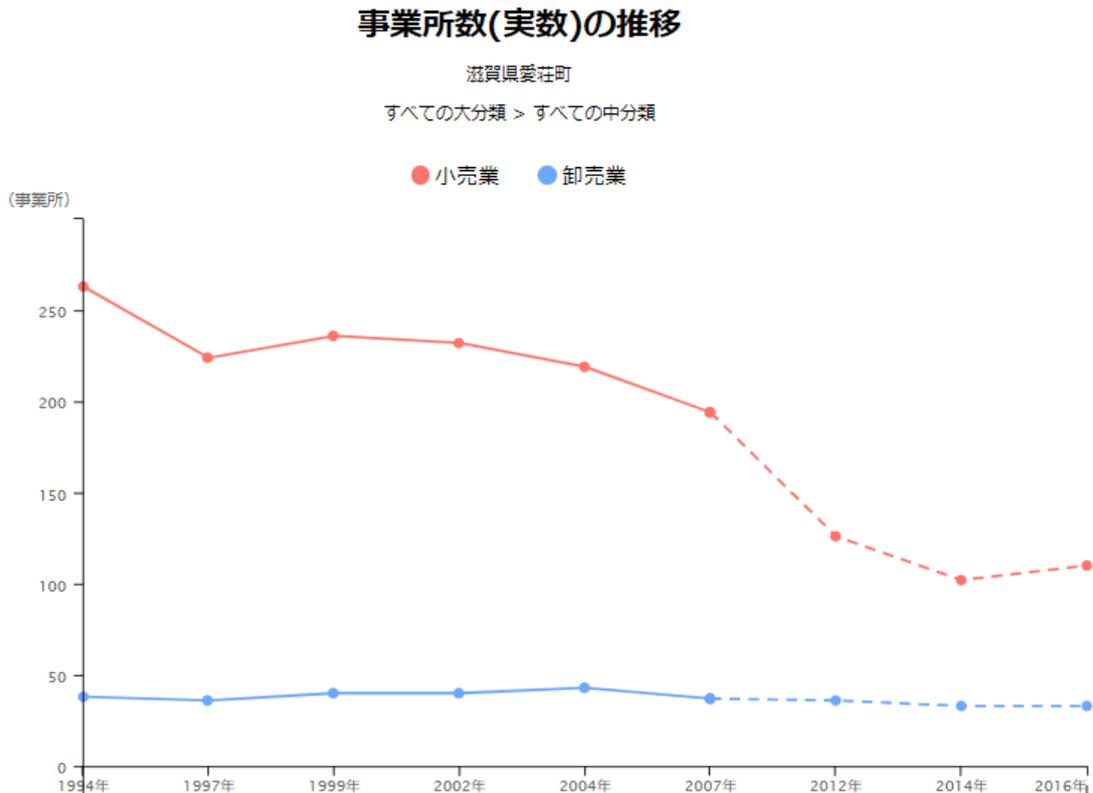
【小売業・卸売業（年間商品販売額の推移）】

愛荘町内で最も事業者数の多い「小売業・卸売業」の年間商品販売額の推移を他の地域と比較する。愛荘町は、2016年が30,997百万円で、大きく離れて豊郷町が15,600百万円、多賀町が5718百万円となっている。



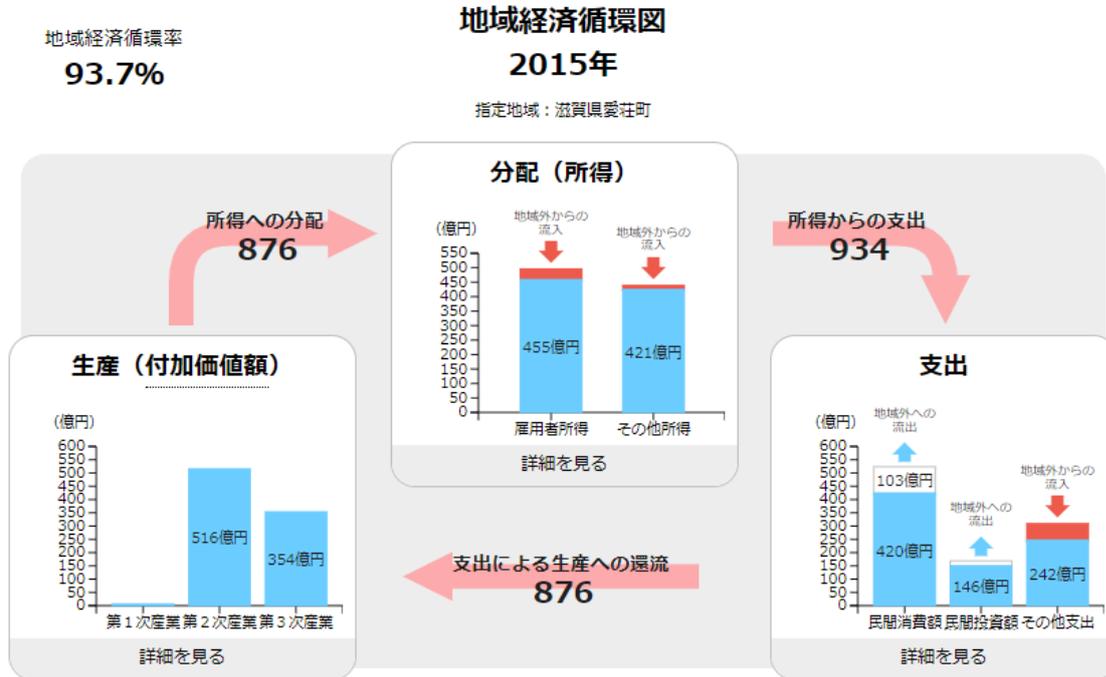
【小売業・卸売業（事業所数の推移）】

愛荘町内の小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフとなる。2007年の小売業 194 事業所、卸売業 37 事業所。2016年が小売業 110 事業所、卸売業 33 事業所となり2012年以降、横ばいの傾向にある。



【地域経済循環】

愛荘町内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、それが消費や投資として支出され、再び愛荘町内企業に還流する。この流れを示しているのが地域循環図である。



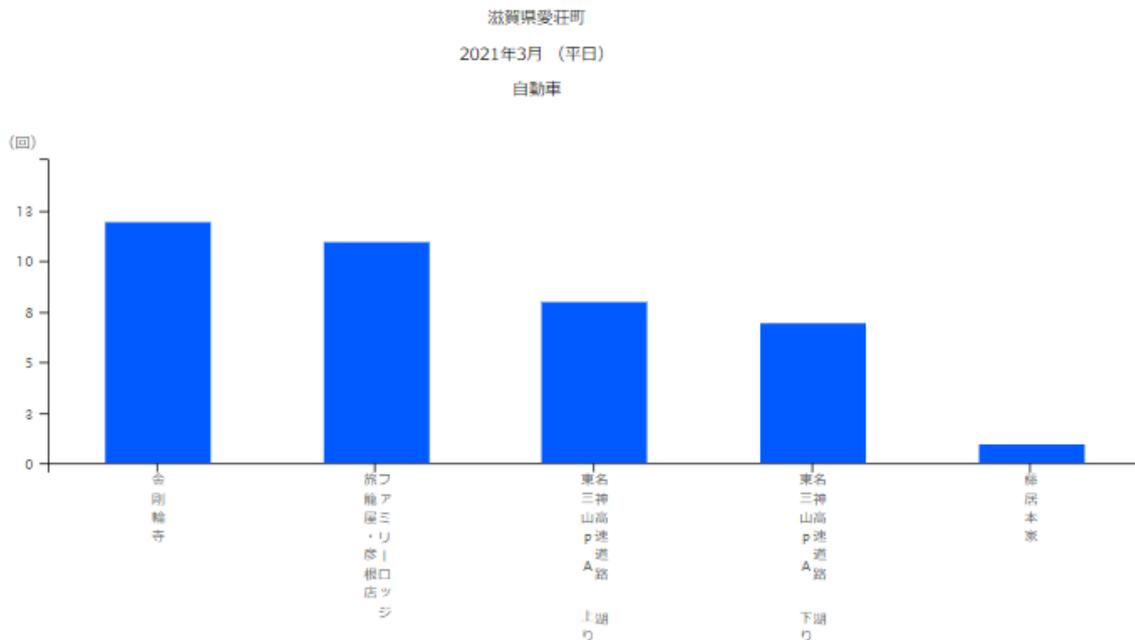
愛荘町の企業は合計 876 億円の付加価値を生み出している。付加価値のうち、支出に回されるのは 934 億円。町外からの流入（58 億円）があるので、付加価値額を超えている。

地域経済循環率は 93.7%と比較的高いが、やはり地域外へ資金が流出しており、地域内で資金を循環させる仕組みづくりが求められる。

【愛荘町内目的地検索ランキング】

カーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフとなる。経路検索から読み取れる、町への観光目的は金剛輪寺で湖東三山 PA も金剛輪寺関連と推察されることから、金剛輪寺を中心としながら町の魅力を効果的に絡めた情報発信をすれば観光客の流入が期待できる。

指定地域の目的地一覧



【まとめ】

年齢別人口推移でも示したように、愛荘町の生産年齢・年少人口とも微増する見込みで、逆三角形になりつつあるが、他地域に比べ緩やかな傾向にある。これは、愛荘町がJR能登川駅まで車で20分、稲枝駅まで13分と近く、また町内には国道8号線が貫き、名神高速道湖東三山スマートインターチェンジがあり交通の要所であることに加えて、大手メーカーの工場が多くあり、そこで働く従業員で比較的若い世帯が勤務地に近い愛荘町に移転してきていることが要因と考えられる。

また、愛荘町内の産業構造は「小売業・卸売業」が最も事業者数が多い。少し古いデータではあるが、2016年が小売業110事業所、卸売業33事業所となっており、愛荘町内での地域内資金循環の重要な役割を果たしている。2012年以降、横ばい傾向が続くと予想されているが、早ければ、「コストコ」（米国の高品質商品を低価格で提供する会員制倉庫型店）が2024年夏ごろ東近江市に滋賀県初の出店を予定しており、愛荘町からは車で約20分と近く特に愛荘町で増加している年代層の多くはコストコに流れることが十分推察されることから町内の「小売業・卸売業」は大きな打撃を受ける可能性がある。

愛荘町は古くから交通の要所で東京日本橋から数えて中山道66番目の宿場町として栄え老舗料理店、小売り店舗が今も商店街を形成しており、愛荘町行政、愛荘町商工会は観光・移住等を絡めながら地域資源をフルに活用し、大型量販店の低価格戦略とは異なる商店街、個店の魅力を高めた差別化戦略を通じて地元商業の活性化を図ることが求められる。

発行：愛荘町商工会

〒529-1331 滋賀県愛知郡愛荘町愛知川 72

TEL:0749-42-2719 FAX:0749-42-5608

URL: <https://aisho.or.jp/>